



Sustainable Community Center Japan

NPO

New Public Organization

欲しいものは自分達で創る

2009 年度 活動報告書

2009 年 1 月 1 日～2009 年 12 月 31 日

2010 年 2 月 19 日

特定非営利活動法人
日本サステイナブル・コミュニティ・センター
<http://www.sccj.com/>

目次

はじめに「2009年度の報告と今後の抱負」

I センター事業活動実績

1. ユビキタス地域健康・医療・福祉情報ネットワーク事業「どこカル. ネット」
 - 1-1. どこカル. ネットの活動概要
 - 1-2. どこカル. ネットのサービス概要
 - 1-3. どこカル. ネットの各種活動実績
 - 1-4. どこカル. ネット運営体制

2. 公衆無線インターネット事業「みあこネット方式」普及支援事業
 - 2-1. みあこネット方式普及支援事業の事業概要
 - 2-2. みあこネット方式普及支援事業の各種活動実績
 - 2-3. みあこネット方式普及支援事業の運営体制

3. 暮らしの食と農を身近に、こころ豊かな社会の創造事業「アグリライフ」
 - 3-1. アグリライフの活動概要
 - 3-2. アグリライフの各種活動実績
 - 3-3. アグリライフの運営体制

4. 研究会事業（産官民学の活発な人材交流）
 - 4-1. 京都研究会

5. 広報・マーケティング
 - 5-1. 各種メールリングリスト運営
 - 5-2. Web サイト運営

6. 会員について

II センター運営に関する活動

1. 総会開催
2. 2009年度 SCCJ 理事会開催日
3. 事務局体制
4. 理事、監事、顧問

はじめに「2009年度の報告と今後の抱負」

特定非営利活動法人日本サステナブル・コミュニティ・センター(SCCJ)は、皆様方のご支援のおかげをもちまして、2009年度の活動を無事終えることができました。本年度総会の開催にあたり、一言、ご挨拶と御礼を申し上げます。

SCCJは、設立以来、この10年の間、多くの方々のご尽力により、情報通信の技術革新を基盤としながら、持続可能な地域社会づくりを進めようというミッションに向けて、多少なりとも前進することができたのではないかと思います。2009年度には、前年度までなかなか着手できなかった「こちネット事業」の活性化について、「アグリライフ事業」として衣替えをし、新たな船出をすることになりました。事業報告にもありますように、「アグリライフ静原大豆レボリューション」事業や「マイ小麦プロジェクト」事業が順調に進んでいます。「どこカル ネット」事業は、今年も活発に活動が進められました。電子カルテを患者さん自身が管理するところまではなかなか難しいのですが、その一歩である「ポケットカルテ」事業については、これまでも開発と実用化を並行して進めてきましたが、2009年度は、実用に向けて大きな飛躍の年になりました。国の平成21年度ICT経済・地域活性化基盤確立事業(ユビキタス特区事業)の受託をし、幅広い展開に向けて開発を進めています。SCCJの社会貢献を強く印象付けてきた「みあこネット」事業は、開発と事業化実験というSCCJとしての使命は達成したことから、昨年度総会でも報告させていただいたとおり、「みあこネット方式普及支援事業」として、技術的な助言や支援を主とするものになりました。もちろん、SCCJとしてこれまで継続してきた京都研究会は、今年は、新たに発足した「アグリライフ事業」にも焦点を当てて、この総会と同じ日に開催することになりました。

2010年度には、これまでの蓄積を生かしながら、「どこカル ネット」事業、「ポケットカルテ」事業の一層の推進を図りたいと考えております。また、「アグリネット事業」は始まったばかりですが、2010年度は大きな発展を期待しております。こうした活動を成功裏に進めていくためにも、会員各位、関係者各位のご指導ご鞭撻、ご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。また、2010年度のSCCJの各事業は、日々の暮らしに密着したものが多く、皆様方にも、ぜひ、ご注目とご参加をいただければと思います。

最後に私事ですが、現在、在外研究で日本を離れております。イタリア、ピエモンテ州、ブラ市にある Universita Digli Studi di Scienze Gastronomiche にて、教育研究に従事しております。今回の総会には参加できませんことを、皆様に深くお詫び申し上げます。

2010年2月吉日

特定非営利活動法人
日本サステナブル・コミュニティ・センター
代表理事 新川達郎

I センター事業活動実績

1. ユビキタス地域健康・医療・福祉情報ネットワーク事業「どこカル. ネット」

<http://www.dokokaru.net>

1-1. どこカル.ネットの活動概要

どこカル.ネットは、近年、少しずつ普及しはじめた医療機関毎の電子カルテシステムをインターネット上で安心・安全に相互利用するための仕組みをつくることで、いつでも、だれでも、どこでも、安心・安全で質の高い医療を受けることができるような(すなわち、どこでもカルテが見ることが出来るような)地域の情報化を住民の手で実現しようというプロジェクトとして、2004年5月に開始。

「どこカル.ネット」プロジェクト開始以前に、北岡顧問が支援してきた3地区を経て、現状、16地区の地域中核病院・団体に対して標準化型電子カルテの導入支援や情報化支援を行っている。

また、同プロジェクトに賛同する23社を会員に迎え、導入支援チームとして、会員数社から7名のボランティアスタッフにSEとして協力いただいている。

また、2008年10月より、個人の健康履歴(検診データ管理、紹介状管理、入退院サマリー)を、インターネットを介して携帯端末やPCを用い、個人主体で管理可能なサービス「ポケットカルテ」の本サービスを開始している。

1-2. どこカル.ネットのサービス概要

■特徴:いつでも、どこでも、だれでも、安心安全で質の高い医療を受ける事が出来る社会的な仕組み作り

- 【1】いつでも:ASP型電子カルテをツールとして、「かかりつけ医(診療所)」と「病院」で24時間体制の連携を目指し、診療情報の共有(一地域一患者一電子カルテ)を行う。(注:ASP型電子カルテとは、インターネットエクスプローラーなど、ホームページ閲覧ソフトのみで利用可能な電子カルテのことである。)
- 【2】どこでも=ユビキタス:「みあこネット方式普及支援事業」プロジェクトとの協業により、医療機関内だけでなく、患者=住民の自宅や外出先での急病で初診した医療機関、救急現場に居合わせた医療関係者に過去の診療情報を共有やその情報に基づく適切な医療が可能。
- 【3】だれでも:ITコンソーシアム京都(京都府・京都市・京都商工会議所と有識者で構成)医療情報化部会との協業で進められている「共通診察券(無償)」を持つ事で、適切な医療を受けることが可能。
- 【4】安心安全:「みあこネット方式普及支援事業」の高度なセキュリティを持った公衆無線インターネット用アクセスマルータ(無線基地局)を利用。また、医療従事者や患者=住民の識別や認証には、「共通診察券」と「指静脈紋認証(生体認証のひとつ)」を組み合わせている為、世界最高レベルの環境を提供している。さらに、診療情報の共有により、薬アレルギーや現在内服中の薬との飲み合わせのチェック等がその場で可能。→医療過誤防止へ。
- 【5】質の高い健康・医療・福祉:共有されている診療情報の内、本人のご承諾が得られた情報については匿名化し、「その地域の住民特有の」健康・医療・福祉情報として統計解析し、「その地域の住民に最適な」健康・医療・福祉環境を探求する。また、解析結果を基に、一人一人の住民に最適な健康・医療・福祉をテーラーメイドで提供。

1-3. どこカル.ネットの各種活動実績

2009年度は以下の活動を実施した。

■ 「どこカル.ネット」事業会議

週1回、北岡顧問、中辻事業運営責任者及びスタッフ一同で定例会議を実施。2009年度においては計45回の会議を開催した。

■ 医療機関・学術団体向けの医療情報システム・医療関連システム導入・構築・更新に対するコンサルテーション

医療機関側に不足しがちなITスキルを補い、助言をし、医療機関と同じ立場で導入ベンダと交渉等を行う。また、

医療情報を適切に扱う体制作りや、問題解決に対する助言、支援を実施。2009 年度における定期的な支援先医療機関、団体は 16 施設。

■ 「ポケットカルテ」～特定健診・保健指導データにも対応した個人向け健康情報管理サービス～

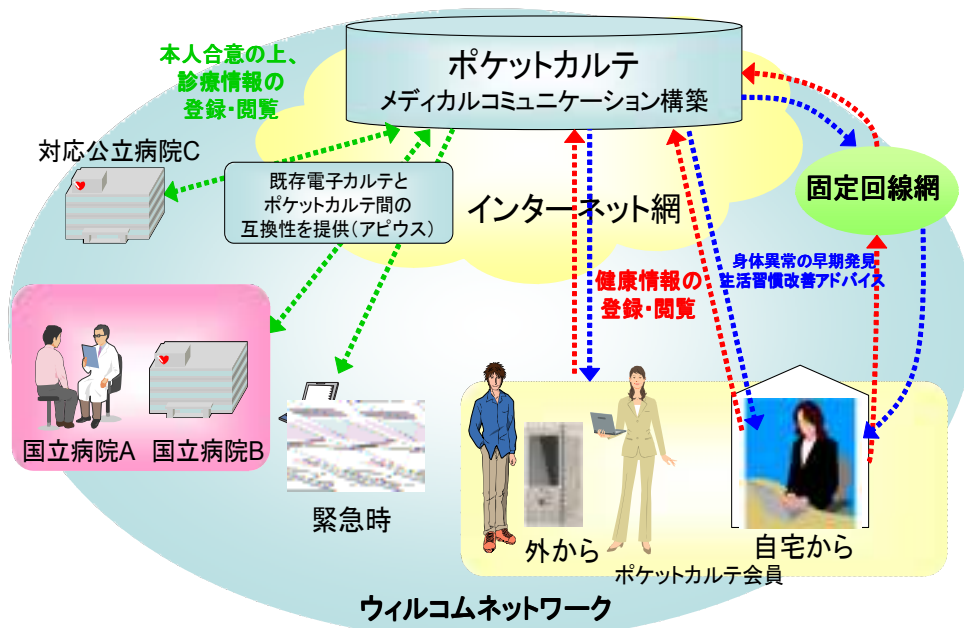
どこカル.ネットと株式会社アピウス様、株式会社メディカルコミュニケーション様、株式会社ウィルコム様は、電子カルテを活用した医療サービス「ポケットカルテ」を4社共同で開発。2008年秋から本サービスの無料提供を開始した。

本サービスは、専用サイト「ポケットカルテ」に登録した上で健康情報を入力する。利用者は自宅のパソコンからネットを通じて閲覧・更新が出来るほか、PHS やモバイル端末で閲覧が可能。様々なメディアでも紹介され、正式サービス開始から4ヶ月間(1月末時点)で、10,000 ユーザーを突破。今後も本サービス「ポケットカルテ」への参加を広く呼びかける予定である。

また、本年3月に開催された「MCPC award 2009」表彰式にて、モバイルコンシューマー賞を受賞、5月にはパソコン向けに全国の病院、診療所、歯科診療所が検索できる機能を追加する等、実用に向けて大きな飛躍の年となった。

さらに、医療機関、利用者の双方にとって、より安心・安全な医療環境の実現を目指すとともに、国家的な課題である医療費の削減や、予防医療・遠隔医療の促進、地域医療の再生など医療分野のICT化にも協力して取り組んでゆく。

サービス概念図



■ 京都ユビキタス特区で、医療機関の「デジタル領収書」サービスを提供～総務省の「ICT 経済・地域活性化基盤確立事業(ユビキタス特区事業)」に採択～

当法人を代表とし、独立行政法人国立病院機構京都医療センター様、株式会社フェイス様、株式会社インテージ様、株式会社ウィルコム様による共同提案(プロジェクト名称:「医療機関のデジタル領収書プラットフォーム構築とヘルスケア家計簿との連携による地域住民への付加価値サービスの実現」)が、総務省の「ICT 経済・地域活性化基盤確立事業(「ユビキタス特区」事業)」として、2009年11月に採択された。

これを受け、上記5法人は、ユビキタス特区に指定されている京都府と連携し、2010年2月中を目処に京都医療センター(京都市伏見区)を中心に京都市南部地域にて、本プロジェクトの実証サービスを開始する。

本プロジェクトにより、年々増加傾向にある医療費情報などを、個人が正確かつ容易に把握・管理することが可能

となる。

- ①地域住民が医療機関(病院・クリニック・調剤薬局)から領収書情報をデジタルデータとして入手
- ②他の医療費控除の対象となるヘルスケア支出(OTC 医薬品や衛生材等)の情報とあわせて蓄積・管理
- ③これらの情報を活用して自身(および家族)の家計管理・健康管理レベルを向上させるとともに、携帯やパソコンを通じて、医療費控除明細の作成を簡便化

上記を実現するシステム、サービスを5法人が協力して構築・提供予定。

今後3年間、本プロジェクトを通して、医療の情報化、地域住民の健康増進への貢献、電子行政サービスの普及を推進し、さらに利用者の統計データの活用により非常にメリットの大きい新しいサービスを創造することを目指していく。

・背景・課題など

医療機関の領収書は、近年、患者への医療費計算根拠をわかりやすくするべく改訂されているが、電子カルテや健康診断データのように患者に対し、デジタルデータとして配布する対象にはなっていない。一方で、地域住民の医療費をはじめ介護・予防等のヘルスケア支出負担は年々増加傾向にあり、2007年には2人以上世帯の家計における医療費控除対象費目の支出額の平均が10万円に達し(※)、確定申告における医療費控除は一般世帯にも身近な制度になりつつある。※総務省家計調査より、株式会社インテージ様が集計

しかし、各個人・家庭が医療費控除をうけるためには、医療機関への支出のほか、控除対象となるドラッグストア等での支出の領収書・レシートを蓄積・管理し、さらに確定申告に際しては課税書類(医療費控除明細)へ詳細な記入が必要となる。このことはe-TAXの導入により電子申請における領収書原本や証明書類の添付が免除されても同様であり、地域住民(納税者)にとって年間を通した領収書・レシート管理と記入の煩雑さが負担になっていた。

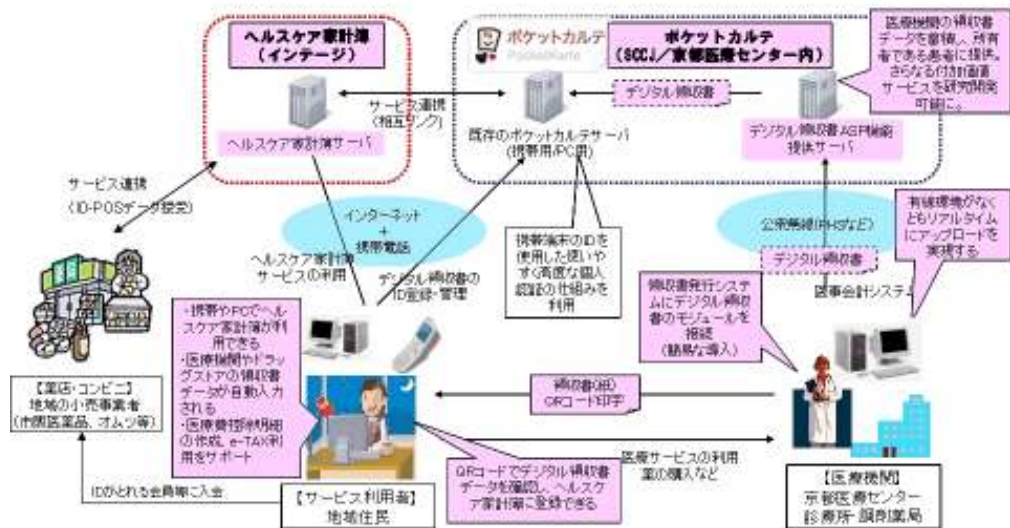
・本プロジェクトの概要・目的

本プロジェクトではSCGJが株式会社フェイス様、株式会社ウィルコム様と共同開発し運営する個人向け健康情報管理サービス「ポケットカルテ」が、医療機関のデジタル領収書を蓄積・管理するプラットフォームである。これに株式会社インテージ様が開発した、協力ドラッグストア等の小売店のレシートデータを蓄積できる「ヘルスケア家計簿」を連携させ、個人のヘルスケア支出管理と医療費控除明細の作成支援を行うサービスを提供(イメージ図参照)。利用者は医療機関での全ての支出を網羅し、医療保険外のサービスも含む詳細なデータを得られるほか、ドラッグストア等で購入した大衆薬やサプリメント、健康食品、介護用品などのデータもあわせて取得することで、自身の健康管理とヘルスケア支出の節減が可能となるほか、医療費控除の対象・非対象を自動仕分けして医療費控除作成を簡易化する機能により、税還付を容易に受けることができるというメリットがある。

本プロジェクトにより、医療機関の領収書やドラッグストア等のレシートのデジタル化(デジタル領収書)によるサービスを提供し、医療の情報化・地域住民の健康管理・医療費控除明細の作成支援による電子行政サービス(e-TAX)利用を推進する。

また、上記5法人は、本事業においてサービスの実証と、有識者委員会の設置による技術面とビジネスモデル面での検討などを受け、デジタル領収書の普及を推進し、生活者としての視点からみた医療サービスの満足度向上と健康増進を目的としたICT化に協力して取り組む。

サービス全体図



サービスご利用イメージ図



※1・・・サービス対応する医療機関・小売での支払いが対象です。

※2・・・ <http://pocketkarte.net/> 本イメージは、今後の正式なサービスリリース時には、変更となる場合がございますので、予めご理解のほど、よろしくお願いいたします

■「どこカル.ネット」会員研修会

本プロジェクトの概要と現状、進捗状況等について情報共有すると共に、会員互の連携・親睦を図る機会として2ヶ月に一度開催。2009年度においては6回の研修会を開催した。

<研修会開催日>

- ・ 2009年2月27日(金) 第26回どこカル.ネット企業会員研修会
- ・ 2009年4月24日(金) 第27回どこカル.ネット企業会員研修会
- ・ 2009年6月26日(金) 第28回どこカル.ネット企業会員研修会
- ・ 2009年8月28日(金) 第29回どこカル.ネット企業会員研修会
- ・ 2009年10月9日(金) 第30回どこカル.ネット企業会員研修会
- ・ 2009年12月18日(金) 第31回どこカル.ネット企業会員研修会



写真:会員研修会での様子

■ 「未来のお医者さん・看護師さん作文コンクール」の実施

将来の医療従事者の育成・発掘、また創造的な医療分野の開拓を目的とし、小学生を対象とした作文コンクールを実施。

第5回目の開催となる2009年度は、全国の小学生から作文が応募され、新潟市立万代長嶺小学校6年坂井 泰法様に最優秀賞が授与された。応募総数も大幅に伸び、全国各地偏りなく400字詰めいっぱい書かれた力作が多く集まった。未来の医療に対し多くの子供達が夢を抱いていることがどの作品からも読み取ることができ、開催の意義が感じられた。2010年度以降も継続して開催予定である。

■ 医療現場に携わる医師・看護師などで構成する PHS 研究会設立～医療用PHS端末・サービスの開発に着手～

2008年6月、医療界に最適な通信端末の検討を志し、医療現場に携わる医師・看護師などで構成する医療用PHS 端末研究会を設立。様々な健康・医療・福祉現場で必要となる専用端末のアイデアを持ち寄り、それを具体化し、医療現場に送り出すことを目的とした研究会である。計3回開催され、今後、研究会の実績をもとに医療機関に向けて提唱することで、実社会での活用を目指す。

■ リフレッシュ PC プロジェクト

病院や企業で使用され、不要となったパソコンを用い、学校や地域の情報化を進める活動を行っている。学生インターンシップ生やボランティアの活躍によりパソコン本体を掃除し、内部のデータを消去して新たに利用可能な状態(リフレッシュ PC)にすることによって、遊休資源を地域の学校や各種団体にとっての必要な資源へと生まれ変わらせる活動である。2009年度には「未来のお医者さん・看護師さん作文コンクール」での最優秀賞の副賞としてリフレッシュ PC 30台を設定した。

■ 2009年の主なイベント一覧

- ・ 01月10日～18日 HL7 January 2009 Working Group Meeting
- ・ 01月20日 NECビッグロブ株式会社様発行 BIGLOBE会員情報誌Saailsara2009年1月号に「ポケットカルテ」が紹介された。
- ・ 01月31日 「ポケットカルテ」が正式サービス開始から4ヶ月間で、10,000ユーザーを突破。
- ・ 02月27日 第26回どこカル.ネット企業会員研修会
- ・ 03月03日 「ポケットカルテ」がMCPC様主催MCPC award 2009グランプリ／総務大臣賞 候補にノミネートした事に関して、各メディアに掲載された。以下、掲載記事一覧(CNET様、ITmedia+D様、RBB TODAY様、ITmediaプロモバ様、YOMIURI ONLINE様(CNET記事転載)、Yahoo!ニュース様(ITmedia+D記事転載、RBB TODAY様)、exciteニュース(ITmedia+D様記事転載)、MSNデジタルライフ様(ITmedia+D様、RBB TODAY様記事転載)、livedoorニュース様(RBB TODAY様記事転載))
- ・ 03月09日 EU特許取得(処方箋などの医療文書偽造防止システム)
- ・ 03月09日 米国特許取得(処方箋などの医療文書偽造防止システム)
- ・ 03月09日 中国特許取得(処方箋などの医療文書偽造防止システム)
- ・ 03月19日 「ポケットカルテ」が、MCPC様主催MCPC award 2009表彰式にて、モバイルコンシューマー賞を受賞
- ・ 04月24日 第27回どこカル.ネット企業会員研修会
- ・ 05月10日～15日 HL7 May 2009 Working Group Meeting

- 05月11日 「ポケットカルテ」に全国約16万の病院、診療所、歯科診療所の検索機能が追加した事に関して、各メディアに掲載された。以下、掲載記事一覧(日経産業新聞様、nikkeiBPnet様、japan.internet.com様、RBB TODAY様、CNET様、Yahoo!ニュース様 (RBB TODAY様、japan.internet.com様記事転載)、MSNデジタルライフ様(japan.internet.com記事転載)、YOMIURI ONLINE様(CNET様記事転載)、医療介護CBニュース様(キャリアブレイン)
- 06月15日～10月28日「第5回未来のお医者さん・看護師さん作文コンクール」実施
- 06月24日 【ITコンソーシアム京都】平成21年度第1回医療情報化部会開催
- 06月26日 第28回どこカル.ネット企業会員研修会
- 07月31日 MCPC様発行「成功したモバイル活用事例2009」に「ポケットカルテ」が紹介された。
- 08月28日 第29回どこカル.ネット企業会員研修会
- 09月20日～26日HL7 2009 22nd Annual Plenary & Working Group Meeting
- 10月09日 第30回どこカル.ネット企業会員研修会
- 11月02日 京都ユビキタス特区で、医療機関の「デジタル領収書」サービスを提供～総務省の「ICT経済・地域活性化基盤確立事業(ユビキタス特区事業)」に採択
- 11月19日 ユビキタスセンサーネットワーク研究会
- 11月27日 MCPC様主催MCPCモバイルソリューションフェア2009にて講演
- 12月03日 【内閣府】平成21年度障害者週間の集いに出席
- 12月07日 【経産省】「新需要開拓・雇用創出に向けた意見交換会」第一回会合出席
- 12月18日 第31回どこカル.ネット企業会員研修会

また、2010年1月にHL7 International January 2010 Working Group Meeting Phoenix, AZ, USA へ出席予定。2010年2月に「第5回未来のお医者さん・看護師さん作文コンクール」の最優秀賞授与式を開催予定。

1-4. どこカル.ネット運営体制

■ 運営体制 <http://www.dokokaru.net/modules/tinyd0/index.php?id=7>

【責任者体制】

役職	氏名	所属
事業統括責任者	新川 達郎	同志社大学大学院総合政策科学研究科教授
事業運営責任者	中辻 善行	NPO 法人日本サステナブル・コミュニティ・センター
総括技術責任者	事業統括責任者兼務	
技術運用責任者(情報通信技術担当)	隅岡 敦史	NPO 法人日本サステナブル・コミュニティ・センター
財務責任者	事業統括責任者兼務	

【担当顧問】

氏名	所属
北岡 有喜	京都医療センター 医療情報部長/国立病院機構 情報化統括責任者(CIO)補佐官/国際医療福祉大学大学院 客員教授
國領 二郎	慶應義塾大学総合政策学部長/教授

【企業/企業会員】

種別	企業名	企業名
企業会員	アイテック阪急阪神株式会社	株式会社シィ・エイ・ティ
	株式会社アピウス	ニッセイ情報テクノロジー株式会社
	アライドテレシス株式会社	株式会社パソナテック
	イーメディカルシステム株式会社	日本ビジネスコンピューター株式会社
	株式会社医用工学研究所	日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社

株式会社インスパイア	株式会社ファルコバイオシステムズ
株式会社インテージ	株式会社フェイス
株式会社ウィルコム	株式会社リコー
サクサ株式会社	

他 6 社、計 23 社(50 音順、2009 年 12 月末現在)

2. 公衆無線インターネット事業「みあこネット方式」普及支援事業

<http://www.miako.net/>

2-1. みあこネット方式普及支援事業の事業概要

みあこネットとは、市民の手で自分の住んでいる地域を情報化しようというプロジェクトで、当法人の呼びかけにより 2002 年 5 月から広がり、市民有志の負担でアクセスポイントを設置・運用する実証実験である。

企業内、家庭内におけるネットワークへ、安心・安全に基地局を運営し、また利用者にとっても簡単に公衆でインターネット接続を利用できる方法として、VPN を利用した「みあこネット方式」を提唱し、同方式の普及支援活動を実施している。

プロジェクト開始から 2005 年 3 月末までの 3 年間は、SCCJ を運営母体とする実証実験を実施。2005 年 4 月～2008 年 3 月末は、京都の地域プロバイダ「京都アイネット」での商用運用の採用があり、地域内情報バリアフリーの一役を担った。同社は 2008 年 3 月をもって、みあこネット方式を用いた商用運用を終了している。

2008 年 4 月からは、みあこネット方式に準拠したサーバをパッケージ化し、京都大学や京都医療センター臨床研究センター独自の運用として 2009 年度においても自律分散的に運用されている。

2-2. みあこネット方式普及支援事業の各種活動実績

■ 自律分散運用型のサーバ、市販の無線ルーターによる「みあこネット方式」が継続運用される。

みあこネット方式に準拠したサーバのパッケージを利用し、設置する箇所に応じたネットワーク設定を施すことにより、容易に「みあこネット方式」に対応した基地局として運用可能となっている。

現在、京都大学、京都医療センターにおいて、以下の箇所にて独自運用されている。

- ・京都医療センター：外来管理診療棟、臨床研究センター
- ・京都大学：吉田キャンパス、宇治キャンパス、桂キャンパス、熊取(原子炉実験所)、犬山(霊長類研究所)、東京オフィスなど全学で 300 台以上の基地局が稼働中

<http://www.kuins.kyoto-u.ac.jp/ja/index.php?MIAKO> ネット仕様無線 LAN アクセスポイント設置場所

■ 研究成果公表

みあこネットの設計と運用において得られた成果を学術論文にまとめ、電子情報通信学会論文誌に投稿し、採録された。

大平健司、隅岡敦史、北岡有喜、古村隆明、藤川賢治、岡部寿男、**公衆無線インターネット接続サービス「みあこネット」の設計と運用**、電子情報通信学会論文誌、Vol.J93-B, No.5, 2010 年 5 月(掲載決定)。

2-3. みあこネット方式普及支援事業の運営体制

■ 運営体制 <http://www.miako.net/about/organization.shtml>

【みあこネット責任者】

役職	氏名	所属
事業統括責任者	岡部 寿男	京都大学学術情報メディアセンターネットワーク研究部門教授
総括技術責任者	古村 隆明	京都大学学術情報メディアセンター産学官連携准教授

【担当顧問】

氏名	所属
今井 賢一	株式会社東京大学エッジキャピタル取締役
北岡 有喜	国立病院機構本部情報化統括責任者(CIO)補佐官／京都医療センター医療情報部長／臨床研究センター情報推進研究室長

國領 二郎	慶應義塾大学総合政策学部長/教授
辻 正次	兵庫県大学大学院応用情報科学研究科教授

3. 暮らしの食と農を身近に、こころ豊かな社会の創造事業「アグリライフ」

<http://www.agri-life.net/>

3-1. アグリライフの活動概要

ICT を活かした安心・安全な食と農のある暮らしの根ざす地域社会作り、都市と農村の持続可能な交流と産業モデル作りを行う。なお、アグリライフは 2005 年より実施している「こちネット」の掲げる理念「障害の有無や、性別、年齢にかかわらず自律性、自発性、創造力を発揮できる安心・安全な社会モデル作り」はそのまま踏襲し、2009 年 6 月 1 日付けで発展的改称した事業である。アグリライフの事業は、上記理念を掲げる事業を行う主催事業と、他団体・企業に対する企画立案、各種支援事業に分けられる。2010 年の取り組みについては今年度に開催した取り組み内容は継続し、ICT をプロジェクト内で利活用して社会モデルを作りあげる。

3-2. アグリライフの各種活動実績

2009 年度に実施した活動は以下の通り。

■ 食と農をテーマとした都市と農村の交流事業（実施順）

● アグリライフ静原大豆レボリューション（2009 年 6 月～2010 年 1 月、京都市左京区静原）

自ら栽培して農を身近にし、加工まで関わることで食についての自給率や安心・安全について見直す機会とするため、大豆と小麦をテーマに実施した。収穫した大豆は次年度に味噌を仕込む。また、普段訪れることのない農村部に入り込み、地元の方との出会いや風土を感じるにより、都市と農村の交流を図った。



● マイ小麦プロジェクト（2009 年 10 月～2010 年 7 月、京都市左京区静原）

日本の各地で稲の裏作として麦の栽培がされなくなってしまっている。この背景には栽培コストの増大、輸入小麦の価格低下などの原因があるが、かつて行われていた小麦の栽培を、小麦農家の指導を受けながら都市住民が参加し、収穫した小麦でパンを作ろうというプロジェクトである。また近年安心な国産小麦の需要が高まっており、同モデルを用いた栽培方法で各地の小麦供給率向上を目指す。



■ 食と農をテーマとした企画立案と実施、支援事業（実施順）

- マクロビオティック料理教室（2009年5月29日（金）、ウイングス京都）

ピンホール写真芸術学会（PPAS）主催のスローフードをテーマとするワークショップに企画立案支援した。



講師には千葉の農村部で5児の育児をしながらレストランを営み、料理に関する著作が多く著名な中島デコ氏を招き、料理教室を交えてワークショップを開催した。子育てと家事、仕事の両立に悩む20～30代の女性を中心に定員20名を超える参加があり、参加者が講師との十分なコミュニケーションが取れる場となった。

- 静原こどもお米作り教室（2009年3月～2010年1月、京都市左京区静原）

株式会社マイファーム主催の「静原こどもお米作り教室」に対し、実施対象の田んぼにてカリキュラム作成支援、無農薬による水稻栽培支援を行った。一般のお米作り体験では田植え、草抜き、稲刈りといった体験は数回しか機会が無いが、米の蒔き（育苗）から収穫の後の脱穀まで計10回の体験機会を創出。田舎暮らしやお米作りを習得したいと考える30組が参加した。



- 幼稚園の体験農園支援事業（2009年5月～10月、京都市左京区静原）

京都市北区に市する桃林幼稚園が設けている、左京区静原にある「ふぁーむとうりん」にてサツマイモ作りの栽培支援を実施した。



■ 大学コンソーシアム京都からのインターンシップ生の受け入れ

2009年度は財団法人大学コンソーシアム京都の主催する、大学生の夏休み期間を利用したインターンシップ・プログラムを昨年に引き続き参加した。インターンシップ生2名の採用を行い、8月1日～31日の1ヶ月間、新プロジェク

ト「アグリライフ」の運営を協力いただいた。当法人での就業体験により、次年度以降も市民主体の社会貢献活動を広げていきたい。

3-3. アグリライフ運営体制

■ 運営体制

【責任者体制】

役職	氏名	所属
事業統括責任者	隅岡 敦史	NPO 法人日本サステナブル・コミュニティ・センター

【担当顧問】

氏名	所属
北岡 有喜	京都医療センター 医療情報部長／国立病院機構 情報化統括責任者 (CIO)補佐官／国際医療福祉大学大学院 客員教授

【企業/団体会員】

種別	企業名	団体名
企業・団体会員	株式会社マイファーム	学校法人桃林幼稚園
		ピンホール写真芸術学会

1 社、2 団体 (50 音順、2009 年 12 月末現在)

4. 研究会事業 (産官民学の活発な人材交流)

4-1. 京都研究会

毎年恒例となっている研究会事業の京都研究会について、2009 年度については年度中の開催は実施せず 2010 年 2 月 19 日(金)に開催を予定している。内容は以下の通り。

第 11 回京都研究会 2009-2010

<http://www.sccj.com/kk/2009-2010/>

「いま求められる食と医療と IT」

【内容】

■ 受付開始: 12:00

■ 第 1 部 研究会: 13:00~17:00

12:00~

受付開始

13:00~

第 1 部 京都研究会 2009-2010

13:00~13:15

開会の挨拶: 新川 達郎(同志社大学大学院総合政策科学研究科教授/
NPO 法人日本サステナブル・コミュニティ・センター代表理事)

13:15~13:30

ここちネットの発展的改称 アグリライフとは?: 隅岡 敦史(アグリライフ事業統括責任者)

13:30~14:45

「食」における安心安全を考えるパネルディスカッション

座長: 隅岡 敦史(アグリライフ事業統括責任者)

パネリスト: 塩見 直紀 氏(半農半X研究所 代表/ NPO 法人 里山ねっと・あやべ)

山内 美陽子氏(谷町空庭 代表)

寺田 裕美子(笑福庭 代表 アメリカ園芸療法協会認定園芸療法士)

14:45~15:00

休憩

15:00~15:15

どこカル.ネット『第 5 回未来のお医者さん・看護師さん作文コンクール』最優秀賞表彰式

15:15~16:15

ここまで来た! 「ポケットカルテの新機能」: 北岡 有喜(京都医療センター
医療情報部長/NPO 法人日本サステナブル・コミュニティ・センター顧問)

16:15~16:55

【総合討論会】『いま求められる食と医療と IT』コーディネータ: 北岡 有喜

(京都医療センター医療情報部長/NPO 法人日本サステナブル・コミュニティ・センター顧問)

16:55~17:00

閉会の挨拶: 竹原 司 (ナレッジオートメーション株式会社代表取締役/NPO 法人日本サステナブル・コミュニティ・センター副代表理事)

■ 第 2 部 分科会(懇親会):17:00~19:00

【会場】ルヴェ ソン ヴェール岡崎

住所:京都市左京区粟田口鳥居町 2-1 京都市国際交流会館内

電話:075-762-1777

【参加費】有料

・研究会(13:00~17:00)のみの参加

一般:1,000 円

SCCJ 会員(みあこ・どこカル・ネット・アグリライフ企業・団体会員/個人・学生・ベテラン会員):無料

・研究会、懇親会(17:00~19:00)すべて参加

一般:5,000 円

SCCJ 会員(みあこ・どこカル・ネット・アグリライフ企業・団体会員/個人・学生・ベテラン会員):4,000 円

【運営体制】

主催:特定非営利活動法人日本サステナブル・コミュニティ・センター

後援:京都府、京都市、京都新聞社、IT コンソーシアム京都

【定員】220 名

5. 広報・マーケティング

Web サイト、プレスリリース、各種メールリストでの広報・マーケティングを行った。

5-1. 各種メールリスト運営 (Yahoo! eGroups 利用)

SCCJ 関連で、テーマ、目的別のメールリストが 10 数本あり、ネット上で協働作業や情報交換を行っている。その中でも一般情報交換用メールリスト「aibousan」は、誰でも入れる双方向型のメールリストで、設立当初の 1999 年の 190 名から数年たち、2009 年 12 月末に登録者は 723 名となった。

5-2. Web サイト運営

2009 年現在運営しているサイトは以下の通り。

- ・SCCJ <http://www.sccj.com/>
- ・みあこネット <http://www.miako.net/>
- ・どこカル・ネット <http://www.dokokaru.net>
- ・ポケットカルテ <http://pocketkarte.net/>
- ・アグリライフ <http://www.agri-life.net/>

6. 会員について (2009 年 12 月末現在)

<SCCJ 正会員>

会員種別	継続	新規	計
一般	21	4	25
学生	1	0	1
合計	22	4	26

<SCCJ 企業・団体会員>0 団体

<どこカル・ネット企業・団体会員>23 社

詳細は「どこカル・ネット」項目を参照のこと。

<アグリライフ企業・団体会員>1 社・2 団体

詳細は「アグリライフ」項目を参照のこと。

II センター運営に関する活動

1. 総会

特定非営利活動法人日本サステナブル・コミュニティ・センター 総会

日時: 2009 年 2 月 12 日(木) 19:00-20:00

会場：同志社大学大学院総合政策科学研究科会議室

2008年度事業報告、収支報告、2009年度事業について了承された。

2. 2009年度度 SCCJ 理事会開催日

下記の日程に於いて、理事、事務局スタッフによる定期理事会を開催した。

- ・ 2009年2月12日
- ・ 2009年3月26日
- ・ 2009年4月30日
- ・ 2009年5月28日
- ・ 2009年6月17日
- ・ 2009年7月30日
- ・ 2009年8月28日
- ・ 2009年9月16日
- ・ 2009年10月16日
- ・ 2009年11月18日
- ・ 2009年12月18日

3. 事務局体制（2009年12月末現在）

(1) 職員

常勤:3名

プロジェクト・コーディネータ:小川麻理

どこカル・ネット事業運営責任者:中辻善行

どこカル・ネット技術運用責任者(情報通信技術担当):隅岡敦史

どこカル・ネットボランティア:7名

4. 理事、監事、顧問（2009年12月末現在）

(50音順)

代表理事	新川 達郎	同志社大学大学院総合政策科学研究科教授
理事	竹原 司 (副代表理事)	ナレッジオートメーション株式会社代表取締役/株式会社デザイン・クリエイション最高顧問/社団法人コンピュータソフトウェア協会理事・名誉会員
	平澤 創 (副代表理事)	株式会社フェイス代表取締役社長
監事	土井 充	公認会計士土井充事務所
顧問	跡田 直澄	嘉悦大学教授
	今井 賢一	株式会社東京大学エッジキャピタル取締役
	大村 皓一	宝塚造形芸術大学大学院映像造形学科教授
	北岡 有喜	京都医療センター医療情報部長/国立病院機構 情報化統括責任者(CIO)補佐官/国際医療福祉大学大学院客員教授
	北矢 行男	多摩大学総合研究所名誉教授
	公文 俊平	多摩大学情報社会学研究所所長教授/財団法人ハイパーネットワーク社会研究所理事長/神戸大学大学院大学非常勤講師
	國領 二郎	慶應義塾大学総合政策学部長/教授
	辻 正次	兵庫県大学大学院応用情報科学研究科教授

林 敏彦	放送大学教授(兼、学長特別補佐)／(財)ひょうご震災記念 21 世紀研究機構安全安心社会研究所所長／大阪ガス株式会社監査役
町田 洋次	元社団法人ソフト化経済センター理事長
三木 秀夫	弁護士・大阪 NPO センター理事
山内 直人	大阪大学大学院国際公共政策研究科教授

以上